

平成22年2月

眞砂俊彦 学位論文審査要旨

主 査 河 合 康 明

副主査 佐 藤 慶 祐

同 宮 川 征 男

主論文

Effect of the rho-kinase inhibitor hydroxyfasudil on bladder overactivity: An experimental rat model

(ラット過活動膀胱炎モデルにおける排尿筋過活動に対するRho-kinase阻害薬の効果)

(著者：眞砂俊彦、渡邊健志、齊藤源頭、木下ゆか子、佐藤慶祐、宮川征男)

平成21年 International Journal of Urology 16巻 842頁～847頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は雌Sprague-Dawleyラットを用いて、cyclophosphamideを腹腔内投与して間質性膀胱炎モデルを作成し、膀胱炎モデルにおける、ROK阻害剤であるhydroxyfasudilの効果について、排尿状態のモニタリング、膀胱内圧測定、膀胱切片におけるcarbacholの濃度-収縮曲線から検討したものである。その結果、hydroxyfasudilを投与した群において、膀胱内圧測定、等尺性張力実験では排尿筋収縮力を有意に抑制し、排尿行動記録で、一回排尿量が増加する結果が得られた。以上からhydroxyfasudilは過活動膀胱の治療薬となることが示唆された。本論文の内容は、従来の抗コリン薬に難治性の間質性膀胱炎に関連した過活動膀胱に対し、hydroxyfasudilが新たな治療薬になりうる可能性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。